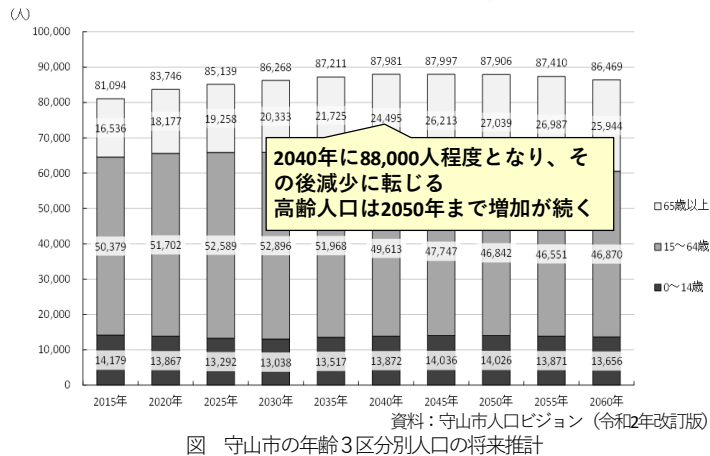


公共交通を取り巻く状況と課題および基本理念と基本方針の案

1. 本市の公共交通を取り巻く状況と問題点

①守山市の地域の特徴

- 市全体が平坦な地形。市南部のＪＲ守山駅周辺や琵琶湖大橋東詰の地域に市街地が集積し、２つの拠点琵琶湖大橋取付道路が結んでいる。また、周辺には田園と既存集落が広がる。
- 少子高齢化が着実に進行し、一世帯あたりの人員は減少。
- 人口は2040年に88,000人程度となり、その後減少に転じる。
- 京都・大阪方面への通勤通学者が多い。



④公共交通事業者の実態

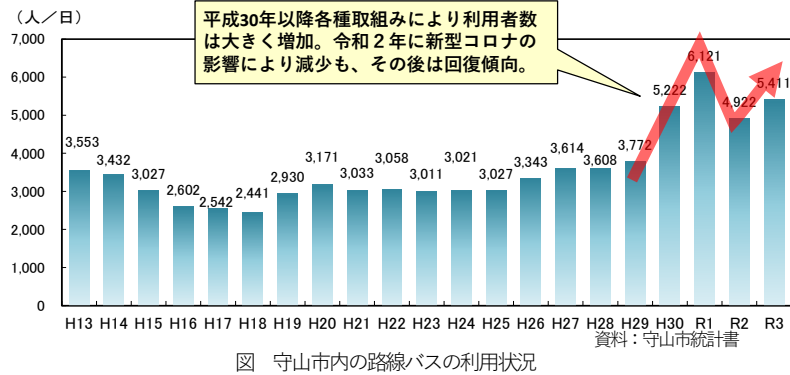
- 交通事業者ヒアリング調査結果より

- 乗務員不足・高齢化、2024年問題。これらの問題により、現在の路線・系統をそのまま維持することが困難。
- したがって、今後は路線の効率化・見直しが必要になる。
- 効率化を図るため、ICT技術等を活用する際は、利用者にとってわかりやすく使いやすいものとしないと、定着が難しい。

②守山市の交通の特徴

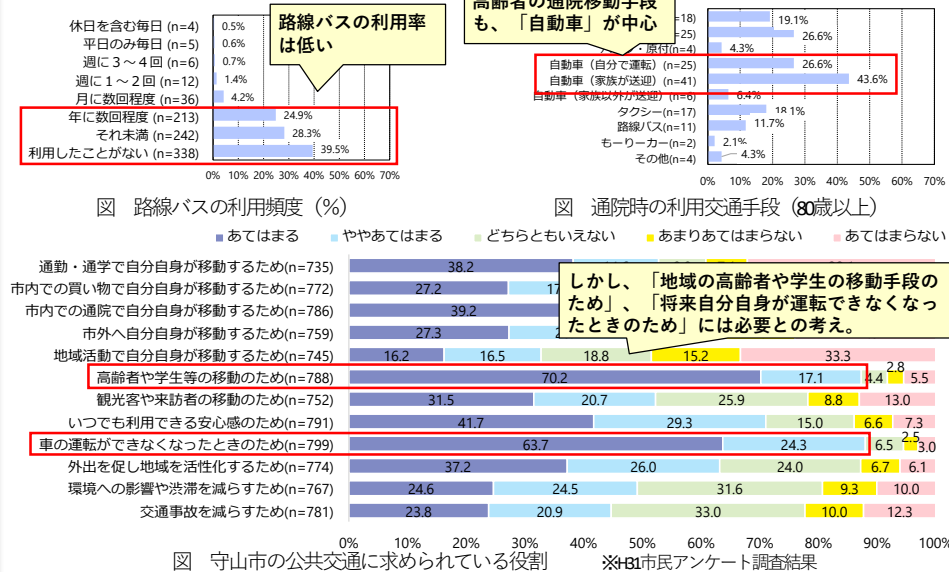
（公共交通）

- JR守山駅は新快速停車駅であり、京都・大阪へのアクセス性が高いが、社会情勢の変化や運行効率化等の影響により、減便も発生している。
- 路線バスはレインボーラインが基幹路線。全路線が駅を起終点に運行。
- 路線バスを補完するために、「モーリーカー」を運行。
- 草津市、栗東市と連携して、済生会病院等を結ぶ「くるっとバス」を運行。
- ドア・ツー・ドアサービス等を担うタクシーが運行。
- 路線バスの利用促進策として、高齢者おでかけパス、スーパー学割バス定期券、ＢＴＳ（自転車駐輪場）設置などの取組みを実施。
- 公共交通の取組みへの公費負担は年々増加傾向。
- 公共交通の利用者数は、人口増加や利用促進策により増加傾向が続いたが、令和2年度に新型コロナの影響で大きく減少（その後回復）。
- 市内バス路線の多くが不採算路線となるなか、「モーリーカー」は増加を続けている。
- 市内バス路線の多くが不採算路線となるなか、「モーリーカー」は増加を続けている。（自動車交通等）
- 琵琶湖大橋取付道路、県道片岡栗東線等において道路混雑が顕著。特に雨天時には、駅への送迎車両により守山駅西口の渋滞が激しい。
- 75歳以上の運転免許返納者数が増加。今後も増加すると予想。
- 企業バス等は数社運行しているが、一般利用の活用には至っていない。



③守山市民の移動状況の実態と問題

- 市民の多くは移動手段に自動車を利用。一方で、公共交通の利用率は低い。
- 高齢者の通院手段は主に自動車で、特に家族の送迎が多い。
- 地域の高齢者・学生、自分自身の将来のために公共交通は必要だと思うが、実際はあまり利用されていない。



⑤市民が考える公共交通の特徴

- 市民懇談会開催結果より

- < 良い点 >
- 自家用車よりも環境が良い
 - 子どもや高齢者など、誰もが安全安心に利用できる
 - 利用者は維持費がかからず、車両の管理も不要
- < 悪い点 >
- 住んでいる場所によっては乗り場が遠い
 - 自家用車よりも自由度や利便性が低い

公共交通の良い点や必要性を認識はしているものの、自家用車との自由度や利便性の差があると感じている。

2. 守山市の公共交通の課題

①守山市の地域特性を活かした持続可能な公共交通

JRや路線バス等の公共交通の維持・確保に向けて、利用してもらうためには、使いやすくすることが重要です。また、バスの不採算路線を多く抱えるなか、各交通手段の適切な役割分担を考えていく必要があります。リソース（経営資源）を踏まえ、今ある公共交通を活かした効率的かつ効果的な対策が求められます。

②少子高齢社会における、誰もが移動できる環境づくり

守山市では、高齢化、核家族化の進展、運転免許返納者の増加、子育て世代の暮らしやすさなど、今後公共交通を必要とする人は増加すると考えられます。したがって、安全安心で誰もが移動できる公共交通は将来にわたり維持・確保することが必要です。

③公共交通に対する興味・関心の向上

公共交通の必要性に理解を示す市民は多いものの、日々の移動手段として自動車依存が続いている状況です。自動車を利用する人も含め、公共交通への関心を高めて、利用に繋げることが必要です。

④地域全体で支え合う公共交通の実現

公共交通を維持確保するためには、交通事業者や市に依存するのではなく、市民、事業所、来訪者も含めて、地域全体で公共交通を支え合うことが必要です。支えて、使うためにはどうしたらよいか地域全体で考え、取り組んでいくことが必要です。

3. 守山市地域公共交通計画の基本理念と基本方針（案）

< 基本理念 >

地域のみんなで考え、今あるものを上手に活用しながら、将来にわたり誰もが安心して移動できる地域交通を実現する

I. 既存公共交通を活かした利便性の向上

- J R、路線バス、モーリーカー、タクシーは、これからも守山市にとって重要な交通手段であり、各手段を単体や組合せにより有効活用して、公共交通サービスの利便性向上を図ります。

II. 高齢者や子どもをはじめ誰もが安心して利用できる環境づくり

- 誰もが安心して利用できる環境づくり、日頃公共交通を利用しない人、守山市を訪れた人にとって分かりやすい環境づくりをハード対策やソフト対策を組み合わせ実施します。

III. きめ細かな情報提供とコミュニケーションによる関心と利用の拡大

- 公共交通サービスや外出を促すための情報、公共交通の役割に関する情報など、きめ細かな情報提供と、コミュニケーション施策を通じて、公共交通に接したり、考える機会を増やし、関心と利用の拡大に努めます。

IV. 地域の多様な関係者の共創による地域公共交通づくり

- 事業所、学校、商業施設、医療施設、レクリエーション施設など公共交通と関わりのある多様な関係者と連携し、公共交通の利用促進と運行を支える仕組みを考えます。

基本理念を具現化する具体的施策（案）の検討（資料3）